

名寄市学習規律

一貫した学習規律の確立について

名寄市では、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、各教科の一部で基礎的・基本的な知識や技能の定着に徐々に改善の兆しが見られるものの、基礎学力をはじめ、思考力、判断力、表現力等を育むことが継続的な課題となっています。

この課題を克服するため、各学校では、個に応じた指導の充実、言語活動の充実、学習規律の確立などを重点として授業改善の取組を進めているところです。

しかし、授業を効率的に進めるために必要な学習規律については、指導が徹底されていないなどの状況が見られます。子どもたちに学習規律を身に付けさせることにより、教員は学習指導に専念し学習内容の確実な定着を図る授業を展開することができます。また、子どもたちの学ぶ意欲や規範意識を高め、主体的な学習態度や自主性・自立心を育成することができます。

そこで、どの子にも学習規律を十分身に付けさせるためには、校内はもとより、全ての小・中学校で一貫した学習規律を確立することが効果的であると考え、「名寄市学習規律」として基本的な10項目を作成しました。今後、市内の全ての先生方が一貫した学習規律の必要性や意義を理解し、各学校の創意工夫を加えながら「名寄市学習規律」の徹底を図り、日々の授業を効率的に進めることにより、子どもたちに確かな学力を育むようお願いいたします。



名寄市教育改善プロジェクト委員会

学習指導の工夫改善に関する研究グループ

学習規律の確立

課題

- 学習用具を準備していないため、授業の開始が遅れる状況が見られます。
- 学習規律について掲示はされているものの、指導が徹底されていない状況が見られます。
- 話し方や聞き方などの指導について、それぞれの教員が違った方法で行っており、その都度指導する時間を必要とするため、学習規律が十分身に付かない状況が見られます。

ポイント

- 学習規律を徹底させることは、授業を効率的に進めるために必要です。
 - ・学校全体で共通理解の下、全教職員で重点化を図り、継続した取組が有効です。
 - ・気持ちよく学習を進めるための手段であるなど、学習規律の役割を子どもの発達段階に合わせて理解させます。
- ☆学習規律を確立させるためには、まず、教員が自ら時間を守る、身の回りの整理整頓をするなど、率先垂範を心がけることが何よりも大切です。

具体の取組

- ①学習の準備、あいさつ、姿勢、発表の仕方や話の聞き方、話合いの仕方などの学習規律について、自校の子どもの状況を全教職員で確認します。
- ②現在、各学級でどのように指導しているかを交流し、効果的な指導方法を共有します。
- ③学校として必要な学習規律の重点を全教職員で決めます。
- ④子どもへの示し方や徹底させるための指導方法を確認します。
- ⑤徹底するまで、学校全体で繰り返し指導します。
- ⑥適時、各学級の状況を交流し、指導方法の工夫改善を図ります。

参考資料：平成25年度小学校教育課程改善の手引

「名寄市学習規律（10項目）」

1. チャイムがなったら
素早く席に着く。

- ・集団で特別教室等へ移動する場合は整列して静かに移動する。

2. 学習の始めのあいさつをきちんとする。

- ・忘れ物をした場合は授業が始まる前に教員に伝える。
- ・姿勢良く、始業のあいさつをする。

3. 正しい姿勢で座る。

- ・背筋を伸ばして深くいすに腰掛ける。

4. はっきり返事をし、
みんなに聞こえる声で話す。

- ・「はい」「～です」「～ます」など、最後まではっきりと話す。

5. 話す人を見ながら最後まで聞く。

- ・話す人の方に体を向け、目を見て話を聞く。

6. むだ話や手遊びをしない。

- ・最後まで授業に集中する。

7. 必要のないものを机の上に置かない。

- ・授業中、教科書は左、ノートは右、筆記用具は上に置くなど、配置をきちんと決める。

8. 学習中、勝手に席を離れない。

- ・離れる場合には、教員に理由をきちんと伝える。

9. 学習の終わりのあいさつをきちんとする。

- ・姿勢良く、終業のあいさつをする。

10. 学習用具を片付け、
次の学習の準備をする。

- ・教科書やノート、筆記用具など、必要な用具を机の上に置く。
- ・いすを机の下に入れる。

◇基本的な学習態度◇（実践例：名寄小学校）

【ねらい】

基本的な学習態度を身に付けさせることで、落ち着いて学習できる学級経営を目指すとともに、意欲をもたせ学習内容のより確かな定着を図る。

	話し方	聞き方	準備の仕方など
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○指名されたら「はい」と元気よく返事をする。 ○速やかに起立する。 ※その場で発言する場合はいすは入れない。 ○全員に聞こえる声で話す。 ○下を向かずにはっきりと最後まで話す。 ○皆さんどうですかと意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の方を見て、最後までしっかり聞く。 ○聞き取れない場合には「もう一度言ってください」「もう少し大きな声で言ってください」などと聞き直す。 ○発表後「同じです」「他にもあります」「つけたします」などと言う。 	<p>《学習前》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次の学習に必要な学習道具を机の上に準備して静かに待つ。 <p>《学習中》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習に必要な道具だけ机の上に置き、必要でない道具は机の中にしまう。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手を意識しながら話す。 ※声の大きさや速さ ○理由を明確にして意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手を見て、しっかり聞き取る。 ○自分の意見を持ち、それと比較しながら聞く。 ○理解できる内容にはうなずくなど態度で表現する。 ○発表が終わったら「質問があります」などと自分の意志を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業などが終わったら道具を置き姿勢を正して静かに待つ。 <p>《学習後》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使った道具を机の中にきちんとしまう。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手や場に応じて適切な言葉を遣い、それらの状況を考えて話す。 ○簡潔に意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手を見て、自分の考えと比べながら聞き、それに対する意見をもつ。 ○必要に応じてメモをとり、相手の意見や論点をはっきりさせながら聞く。 ○この発表は客観的事実なのか個人的な意見なのかを考えながら聞く。 	